



校友会会報

酪農学部の使命



酪農学部長
菊地 政則

1960年に誕生した酪農学部酪農学科は50周年の記念すべき年を迎えます。現在、酪農学部は酪農学科、農業経済学科、食品科学科そして食品流通学科の4学科で組織されています。酪農学部には大学全体の約50%の学生が在籍し、卒業生も16,700名を超え、国内外のそれぞれの場で活躍していることは大変喜ばしいことであります。

酪農学は、持続可能な社会を念頭に、生命・食・環境に関す

る体系的でグローバルな視点を要する総合科学です。従って、酪農学部の教育は建学の理念を堅持しながらも、時代のニーズに対応するため常に改革を進めてきました。

現在、酪農学部は、「実学教育」を実践するために、本学キャンパスに設置されているインテリジェント牛舎やバイオガスプラント、肉牛教育研究施設、小家畜施設、食品加工施設等は勿論ですが、北海道のみならず、全国各地域と連携したグローバルな教育・研究の展開を進めております。

同窓生の皆さんが築いた伝統を遺しつつ、変遷が著しい学問と社会的ニーズを鑑みながら更なる教育・研究、そして卒業生との有機的関係を充実するために努力する所存であります。同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

獣医学教育の動向とその対応について



獣医学部長
林 正信

国内の獣医学教育を取り巻く環境はここ数年非常に早い速度で変化しております。獣医学教育の標準カリキュラムの作成や国立大学獣医学部の相互連携等が進みつつあり、また、症例を利用した臨床実習への取り組みや全国共通試験の実施などが検討されています。さらに、平成22年3月の国家試験から必修問題の導入などの改革が行なわれます。獣医学部ではこれらの状況を先取りした新カリキュラムが現在進行中です。このカリキュラムでは専門科目を5教育群に分類し、それぞれの科目について30の教育ユニットが責任をもって教

育する教員組織になっております。以前の研究室の名前が変更になって戸惑いなどが有るかと思いますが、ご理解を頂ければと存じます。

2007年5月に今後30年に渡っての獣医師の需給に関する検討報告書が提出され、産業動物獣医師と公務員獣医師は年々不足するという予想になっています。この様な状況に対応して獣医学部では産業動物獣医師支援・育成事業の一環として昨年、今年と全国の獣医系大学生を対象とした大学での就業体験事業や学内の学生を対象とした産業動物獣医師の理解醸成のシンポジウムを開催しています。今後とも社会的要請に基づく種々の事業を実施していきたいと考えています。最後になりましたが、同窓生の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念致し、獣医学部への更なるご支援をお願い致します。

環境のリーダーとしての大学へ



環境システム学部長
金子 正美

新年あけましておめでとうございます。昨年、4月より環境システム学部長を仰せつかっております金子正美と申します。よろしくお願いいたします。

今世紀は、環境の世紀と言われていたところですが、2009年は、アメリカでオバマ大統領が、日本では鳩山政権が誕生するなど、地球と日本の環境にとっても、チェンジの年だったのではないかと思います。本学でも、2008年に環境憲章を制定し、地球と地域の環境問題の解決に向け全学的な取り組みをスタートさせました。そもそも、本学と環境との関わりは古く、創立者黒澤西蔵先生が足尾鋇毒事件解決に深く関わったことや、黒澤先生が提唱された循環農法は環境保

全型農業のモデルとなっていることなど、開学以来、環境保全と農業との共生に取り組んできておりますし、黒澤先生は、インターネット百科事典のウィキペディアでも、日本酪農の父であるとともに環境運動家として紹介されています。

このように本学は、日本における環境のリーダーたる大学としての歴史、思想、実績を兼ね備えた大学といえます。現在、環境システム学部には、約900名の学生が在籍しています。全学の学生数は約3500名ですので、4人に一人は環境システム学部の学生となっています。そして、毎年、200名を超える「環境学士」が本学から巣立っていきます。彼らは、三愛精神、健土健民という本学の教育理念に培われた理論と技術により、地球に重くのしかかってくる環境問題の解決と地域の発展のため、力を発揮してくれるものと確信しておりますし、私たち教員は、そのような人材を育てていきたいと考えています。新しい時代の酪農スピリッツを持った若者に期待したいと思います。本学の在学、卒業生に対しまして、校友会の皆様の更なるお力添えをいただければ幸いです。

各学科および同窓会の一年

酪農学科 「2009年酪農学科の出来事」

酪農学科同窓会事務局 岡本 英竜

2009年の酪農学科の出来事を振り返ってみた。

1月、卒業論文発表会が短大酪農学科と合同開催され、132題の発表があった。2月には卒業論文が提出され、図書館に所蔵された。3月、卒業式において本学科から173名が卒業し、新たに同窓会会員となった。4月、入学式では新入生175名を迎え入れた。5月、本学にも新型インフルエンザ対応の通知が流れ始めた。6月、学科長杯争奪ソフトボール大会が行われ、家畜管理工学研究室と家畜行動学研究室の合同チームが優勝した。7月、酪農学科ブログを教職員や学生で始めた。8月、夏季休業となり2年生全員が農家委託実習に出かけた。9月、澤本卓治准教授(土壌環境学研究室)が日本土壌肥料学会奨励賞を受賞された。11月、学科長杯争奪バレーボール大会が行われ、農業工学研究室が優勝した。また、澤本卓治准教授が財団法人農学会の日本農学進歩賞も受賞され、ダブル受賞となった。12月、学科教員は師走のごとく奔走した。



食品科学科 「活動報告」

食品科学科同窓会事務局 岩崎 智仁

食品科学科同窓会は、今年度も同窓生の住所録管理を中心に活動を行いました。今年度の卒業生に対しては、卒業記念パーティー開催への補助ならびに学位記のホルダーの贈呈を行いました。2008年は食品科学科が設立されて20年目の節目の年でした。食品科学科同窓会はそれから4年後の1992年に設立されていますから、3年後の2012年に設立20周年を迎えます。その頃には、2000名を超える同窓会組織になり、その社会的意義も益々増してくることが予想されます。食品科学科同窓会の活動は、同窓生の皆様のご協力によって支えられています。今後も、ご指導とご理解をお願い致します。



農業経済学科 「活動報告」

農業経済学科同窓会事務局 佐々 秀和

農業経済学科同窓会の主な活動報告といたしましては、農業経済学科長杯争奪スポーツ大会の共催や年一回の同窓会会報の発行、毎年北海道内各地で実施しております現地研究会の実施・運営、卒業生への学位記ホルダーとシャチハタ付きボールペンの贈呈、卒業記念祝賀会開催に係る運営及び会費補助などを行っております。また、ホームカミングデー後に開催しております卒業10周年、20周年、30周年の同期会を酪農学科、食品科学科、食品流通学科、短大酪農学科と合同で行ったり、同期生同士で開催される同窓会の支援及び補助を行っております。

近年、意欲的に活動が出来ておらず大変申し訳ありません。大学においては2011年に向けて改革が進んでおりますが、同窓会につきましても今までの良い部分は継承しつつ、皆様がかんがえていただけたような活動を行っていきたく考えておりますので、今後ともご支援を宜しくお願いいたします。



食品流通学科 「食品流通学科同窓会活動」

食品流通学科同窓会事務局 西田 智

食品流通学科同窓会の2008年度の活動としましては、2009年3月に卒業生(第12期生)への卒業パーティー支援という形でお手伝いさせて頂きました。

内容としましては毎年のごとくはありますが、卒業生への記念品としてペーパーウェイトと学位記フォルダーを贈呈し、3月11日に札幌のセンチュリーロイヤルホテルでおこなわれた卒業パーティーにて、学生の会費の補助やビンゴゲームでの景品の補助をおこないました。また、パーティーでは細川先生と家申先生へ、卒業生から退職の花束贈呈がおこなわれ、お二人からご挨拶をしていただきました。

ちなみに1994年に食品流通学科の第1期生が入学して、今年で第15期生の入学生を迎えることになり、卒業した同窓生も970名を越すまでになりました。

今後も食品流通学科の同窓会活動にご理解・ご協力頂けますようお願い申し上げます。



■獣医学科「特別三愛賞」

獣医学科同窓会事務局長 菊池 直哉

代議員会が、5月30日(土)に開催されました。今年度より、各支部長が代議員となり、59名の代議員中26名が出席、16名より委任状を頂きました。昨年に比べますと10名以上多くの代議員の出席があり、実りある会議が行われました。来年度も多くの代議員が地元の意見を持って参加し、獣医学科同窓会の充実活性化を図っていただきたいと思います。

今年度最大のトピックは、山下正克獣医学科同窓会顧問の特別三愛賞の表彰です。9月21日の敬老の日に水戸市内のホテルに山下先生ご夫妻が来られて贈呈式が行われました。式には北村会長をはじめ、21名の同窓生が出席しました。先生は95歳になられましたがお変わりなくお元気で、趣味の写真を披露していただきました。獣医学科同窓会がこのように大きく発展したのも山下先生の功績であります。本当にありがとうございました。

第4回「三愛賞」同窓生の部では第9期の作井睦子氏(上川保健福祉事務所所長寄地域保健部)が、エキノコックス症を初めて豚の肝臓から発見し本症の早期発見と予防体制の確立に貢献した事が評価され受賞されました。卒業生の部では米富大祐氏が、国内外の学会において研究発表を行い、日本学生支援機構優秀学生顕彰事業の学術部門優秀賞を受賞、さらにリーダーシップを発揮し学生の信頼も厚く学友の誇りとなる学生であったので、それらが評価され受賞しました。

獣医学科同窓会は同窓会の充実を期すと共に、母校の発展に寄与したいと思っております。



■経営環境学科・環境マネジメント学科「活躍する卒業生との稔りある交流」

環境マネジメント学科長 加藤 敏文

経営環境学科が設置され、5年前に環境マネジメント学科に改組し、合わせて12年間が経過しました。この間、九百四十余名の卒業生が学窓から巣立っていきました。

彼らの多くは青春時代の真っ盛りにあってエネルギーに満ち溢れ、企業、行政、NPOなどの多様な分野で活躍しております。その活躍ぶりは直接あるいは間接に聞いておりますが、はっきりとその元気な姿が目に見えてきます。なかでも自分なりの人生設計を明確にもち、チャレンジ精神旺盛な卒業生が、独立して活躍している姿を見るのも嬉しいことです。同世代の若者に野外音楽活動を通じて環境問題に関心をもたせる活動を展開するNPO代表理事の草野君、ケータイ向け広告配信システムを提供する企業を経営する柵山君などの活躍も素晴らしいものです。

彼らは、多くの学科教員から、「起業した企業のうち、10年以上生き残れるのは2割しかない」という言葉を聞き、記憶しているはずであり、それを頭にしっかり入れて、厳しい経営環境にもかかわらず、懸命に頑張っているようです。そんな彼らが、たまに研究室に立ち寄り、元気な姿を見せてくれることは、また一段と嬉しさが増すように感じます。



■地域環境学科「近況」

地域環境学科長 岩井 洋

冬も間近の冬枯れの季節になると、卒業生の方たちのその後がとくに気になり始めます。最近、私の研究室に嬉しい来訪が3度もありましたが、すべて私の不在中でお会いできず、扉に貼ってある名刺を見つめ、残念がる次第です。この紙面をお借りしてお詫びと、伺ってくれた勇気に感謝したく思います。

3人の方すべてが、名刺に美しい筆跡での近況が書かれていて、ほっとし肩の荷が降りたような、教師冥利をささやかに感じたりしています。

ただ、就職が実現しないまま卒業した方のことや、就職はしたけれども転職したという方、全く音信のなくなった方、そういう卒業生の方々のことも大変に気になります。近況をぜひ教えていただければ嬉しいのですが。

近年明治の作家小泉八雲を西欧近代主義の観点から研究し、講義も行ない、すっかりくはまって>います。私のラフカディオ・ハーン論を皆さんに聞かせたかったのですが、残念です。皆さんの健康と健闘を切に祈ります。



■生命環境学科「生命環境学科第1期生卒業」

生命環境学科同窓会会長 阿部 綾子

この度1期生卒業にあたり、初めての記載ということで、生命環境学科同窓会の会長である私が執筆させていただきます。

早いもので、私たちが卒業して1年になろうとしています。私自身は大学院生として大学に残っており、同じく残っている同期達と再び切磋琢磨しています。当たり前のように毎日過ごしていたその他の同期達は、道内外に散らばって日々仕事に励んでおり、なかなか会って話をする事ができないという悩みを経験するようになりました。今年度の同窓会の働きは、役員決めと会則の制定で留まっていますが、後輩たちもいずれ卒業し同窓会に入ることとなれば、世代を超えて交流

できる同窓会を開けたらと思っています。

最後になりますが、1期生ということで先輩がいない中、試行錯誤を繰り返して互いに刺激しあったことは、きっと良い経験になっていることでしょう。これからも繋がりを大切にしていきたいと思っております。



2009年度ホームカミングデー開催

去る9月19日(土)13時より、教職員、卒業生やそのご家族、約120名の方々にご出席いただき、第18回を数えるホームカミングデーが黒澤記念講堂を会場に行われた。



記念礼拝は、地域環境学科藤井創教授の司式により執り行われ、今年の物故者33名の追悼礼拝が行われた。藤井教授の奨励「祈られている」の中で、この厳しい状況下において、「酪農学園」の「酪」の字は、各々が酉蔵(創設者)になることという意義深い言葉を聴くことも出来た。

記念講演は、麻田理事長のご挨拶で開会。山崎ワイナリーの山崎和幸氏(機農高校70年卒、短期大学72年卒)から「地域農業・農村に基盤を置いたワイナリー事業」と題しての講

演をいただいた。山崎氏は本学卒業後、果樹と水田の複合経営を行い、その後規模を拡大して農業経営を行ってきた。2002年に免許を取得して自家栽培ブドウにこだわったワイナリー事業を軌道に乗せ、今日の成功を掴まれた。その根底には「健土健民」の思想があったとのこと。講演会終了後は、講堂2階の小ホールにおいて、講師を囲んで約50名の方々により茶話会が催され、和やかな雰囲気の中でおのの旧交を温める時を持つことが出来た。この日の夕刻は、ホームカミングデーにあわせて、多くの同期会も開催された。



ご挨拶

校友会事務局長 浦川 利幸

同窓生の皆様、昨年は本学と縁の深い五年でしたが、いかがでしたでしょうか?今年のご健勝で新年を迎えられていることと拝察いたします。

大学同窓会校友会事務局を仰せつかりました農業経済学科12期、大学EXセンター所属の浦川でございます。前任の野教授や同窓会事務担当の方々のご協力をいただきながら、微力ながら校友会の発展に努めていきたいと思っておりますので今後とも、よろしくお申し上げます。

さて、別記のとおり、昨年度のホームカミングデーは9月19日(土)に開催されました。2010年は9月18日(土)、に開催予定です。今年は大学50周年、短期大学部60周年の記念すべき年でもあり、前日の17日(金)には周年事業の開催も予定されております。どうぞ同窓生の皆様も、半世紀の歴史を数えた母校にお立ち寄りいただければと思います。

さて、すでに多くの同窓生の方々のお耳にも入っていると思いますが、現在、大学名の検討が行われていることをお伝えします。変更の主な理由として、大学名称と教育内容の乖離、酪農家戸数の減少、変更による新たな志願層の獲得等が挙げられています。校友会事務局では、この問題について意見集約の時間的余裕がないとの判断で、各学科同窓会にお願いして学科同窓会長あるいは事務局見解という形で取りまとめ、8月末に校友会会長名で麻田理事長宛に提出しました。内容は一部の学科を除き、大多数が校名変更には批判的な意見でした。

23,000人余のOB/OGが卒業したこの「酪農学園大学」というこの校名の変更検討について、賛成の方、反対の方さまざまなお見があると思いますが、今年5月末までに結論が出る予定です。ぜひ各位のご意見を校友会事務局までお寄せ下さい。

半世紀を迎えようとしている母校の永続的な発展は、すべての同窓生の願いでもあります。「名は体を表す」という意味では、非常に重要な転換点を迎えようとしているとも思われます。

2009年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月22日(金)新札幌アーケンティホテルにて2009年度同窓会校友会理事・代議員会が開催された。(出席者22名、委任状33名)野村校友会会長を議長に選出し、第1号議案:2008年度事業報告、収支決算、第2号議案:2009年度事業計画、予算、第3号議案:役員改選、第4号議案:会則改正について慎重に審議の上承認された。今年度より環境マネジメント学科同窓会と生命環境学科同窓会が発足した。新校友会事務局長に浦川利幸氏(農経12期)が就任された。

2009年度校友会役員

会長 野村 武(獣医1)
副会長 澤田 憲宏(農経4)、上村 篤正(食科1)
事務局長 浦川 利幸(農経12)他理事、代議員、監事

2009年度各学科同窓会事務局長

酪農学科 小山 久一、農業経済学科 佐々 秀和
獣医学科 菊池 直哉、食品科学科 岩崎 智仁
食品流通学科 西田 智、地域環境学科 吉田 陽平
生命環境学科 澄川 大輔
経営環境学科・環境マネジメント学科 山崎 耕太

会計報告 2008年度決算及び2009年度予算について下記の通り承認された

収 入

(単位:円)

項 目	2008年度決算	2009年度予算	備 考
前年度繰越金	10,314,102	10,340,717	
分 担 金	2,463,000	2,250,000	821名×3000円
利 息	23,839	25,000	
助 成 金	15,000	10,000	
ホームカミングデー助成金	208,000	200,000	共催金
雑 収 入	64,000	40,000	
合 計	13,087,941	12,865,717	

支 出

項 目	2008年度決算	2009年度予算	備 考
会 議 費	91,374	100,000	理事・代議員会他
連 合 同 窓 会	640,200	640,200	負担金
在 学 生 関 係	110,000	100,000	白樺祭支援、協賛金
会 報 関 係	220,500	250,000	印刷代
ホームカミングデー費	262,110	250,000	校友会負担分54,110円
シ リ ー ズ 小 冊 子	0	100,000	
コ ン ピ ュ ー タ ー 費	0	50,000	HP更新他
人 件 費	1,172,996	1,200,000	事務局長手当含
通 信 費	35,419	30,000	
旅 費 交 通 費	36,840	40,000	会計監査、会議時交通費
慶 弔 費	40,580	30,000	
事 務 用 品 費	64,160	50,000	プリンターインク代、コピー代他
消 耗 品 費	40,555	30,000	マットリース代他
雑 収 入	32,490	30,000	振込手数料他
小 計	2,747,224	2,900,200	
次 年 度 繰 越 金	10,340,717	9,965,517	
合 計	13,087,941	12,865,717	